

新たな運行体制への見直しについて

運行の現状と課題

○現 状

町内完結型運行に切り替え以降、1日平均約33人の利用で推移しているものの、近年の運転免許自主返納者の増加等によりオンデマンドバスの登録件数も増加傾向にある。

また、依然としてマイカーの利用率が高く、利用者の路線バス、オンデマンドバス本来の目的や役割分担の認識が薄く、公共交通を乗って支えていこうという意識の醸成がなかなか進んでいない。

○課 題

現在の運行については、2台の車両で1日12時間稼働しているが、1運行あたりの利用人数も少数であることから、運行単価が高額となり、12人乗り車両を持て余している現状がある。

また、車両そのものの耐用年数も経過し、車両自体も限界に近づいていることから、費用対効果も含め、新たな運行体制への見直しを検討する段階にきている。

見直しの方向性

交通空白地域の方や交通弱者の移動手段の確保には、行政の関与が不可欠である。

オンデマンドバスの運行で培った実績を活かしつつも、さまざまな運行方法の選択肢を検討しながら、費用対効果や利用者ニーズも踏まえ、移動手段のセーフティネットとしての役割を重視し、それぞれの公共交通機関の役割の範囲において効率的・効果的な交通システムの実現性を検討していく。